

高等学校 令和8年度（2学年用）教科

国語 科目 論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1～7組

教科担当者：（1、2、3、4、7組：須賀、5、6組：川上）

使用教科書：（大修館書店「新編 論理国語」）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の習得。

【思考力、判断力、表現力等】本文における情報の関係に注意し、主旨や論理展開を的確に捉える。

【学びに向かう力、人間性等】複数の文章を比較して読み、熱意を持って自分の課題に取り組む。

科目 論理国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な語彙や漢字など、国語の知識や技能を身に付けている。	他者と伝え合う中で創造的・論理的に自分の考えを広げたり深めたりする。	論理的・批判的に考える力を付けるために読書に親しみ、自己を向上させようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話 題	書	読					
1 学 期	A ウサギの耳はなぜ長い？ ・具体と抽象の関係をもとに、一般的な論理を筋道立てて考える力を養う。	・意味段落の構成上の意味を考える。 ・文章の要点を把握する。	○	○	○	【知・技】 ・具体例の役割について理解を深めている。 【思・判・表】 ・内容や構成を的確に捉えている。 【主体的態度】 ・自分の考えを広げたり深めたりすることに向けた取り組みを行う。	○	○	○	6
	B 「論理的な人」とはどういう人か ・「論理」について筆者の考えを読み解き、論理的に文章を構成する。	・言葉の働きについて理解を深める。 ・関連する資料で裏付けを取る。	○	○	○	【知・技】 ・語彙の働きを理解している。 【思・判・表】 ・書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。 【主体的態度】 ・論理的な文章を批評する活動を通し進んで言葉の働きについて理解を深めている。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		○	○		1
	C 対話の精神 ・資料から教訓を得る。	・文章の構造や展開の仕方を理解する。 ・文章の要点を理解し、解釈を深める。	○	○	○	【知・技】 ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 【思・判・表】 ・必要な情報を関連付けて自分の考えを深めている。 【主体的態度】 ・自分の考えを論述する活動を通して、進んで自己についての理解を深めている	○	○	○	11
	定期考査			○	○		○	○		1
2 学 期	D 情報化と紙の本のゆくえ ・ナショナルリズムの背後にあるものを考える。	・論理の展開を意識する。 ・批判的に検討する。	○	○	○	【知・技】 ・情報と情報の関係について理解を深めている。 【思・判・表】 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討して内容を解釈している。 【主体的態度】 ・論理的な文章を批判的に検討している。	○	○	○	7
	E おじいさんのランプ F 紙の本はなくならない ・紙の本と電子の本の役割について考える。	・仮説を検証する。 ・多角的に検討する。	○	○	○	【知・技】 ・推論の仕方について理解を深め使っている。 【思・判・表】 ・文章の構成や表現の仕方について、書き手の意図との関係において評価している。 【主体的態度】 ・論理的な文章を評価する活動を通して、進んで推論について理解を深めている。	○	○	○	7
	定期考査	定期考査		○	○		○	○		1
	G 「考える葦」であり続ける	・論理の展開を理解する。 ・考えを形成し記述する。	○	○	○	【知・技】 ・情報を整理する方法について理解を深める。 【思・判・表】 ・自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。 【主体的態度】 ・主張が的確に伝わる文章を書いている。	○	○	○	7
3 学 期	H 「人口の自然」	・論理の構成を理解する。 ・文章の内容と自己の思考を戦わせる。	○	○	○	【知・技】 ・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 【思・判・表】 ・書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を進めている。 【主体的態度】 ・自分の考えを論述する活動を通し進んで情報の関係について理解を深めている。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		○	○		1
	H 問題演習	・表現の仕方と書き手の意図との関係を捉える。 ・考えを形成し記述する。	○	○	○	【知・技】 ・言葉の働きについて理解している。 【思・判・表】 ・書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理している。 【主体的態度】 ・積極的に語彙を習得している。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		○	○		1
合計										70

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 数学 科目 数学Ⅱ(文系)

教科: 数学 科目: 数学Ⅱ(文系) 単位数: 4 単位

対象学年組: 第 2 学年 1~7 組

教科担当者: (1組文系、3組文系、4組: 田草川) (2組文系、5組、6、7組: 神山)

使用教科書: (高等学校「数学Ⅱ」数研出版)

教科 数学 の目標:

【知識及び技能】 数学リテラシーを身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的思考方法を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】 数学的な法則や理論背景などを調べようとする態度を身に付ける。

科目 数学Ⅱ(文系) の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養っている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養っている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 第1章【式と証明】 【知識及び技能】 多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解している。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 3次式の展開と因数分解 二項定理 多項式の割り算 分数式とその計算 恒等式 等式の証明 不等式の証明	【知識・技能】 多項式の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 多項式の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 多項式の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	22
定期考査			○	○		1
B 第2章【複素数と方程式】 【知識及び技能】 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 複素数についての理解を深め、方程式を解こうとする。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 複素数とその計算 2次方程式の解 解と係数の関係 剰余の定理と因数定理 高次方程式	【知識・技能】 方程式の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 方程式の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 方程式の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	20
C 第3章【図形と方程式】 【知識及び技能】 座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識する。 【思考力、判断力、表現力等】 座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 図形と方程式の有用性を認識するとともに、事象の考察に活用している。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 直線上の点 平面上の点 直線の方程式 直線の関係 円の方程式 円と直線	【知識・技能】 図形と方程式の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 図形と方程式の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 図形と方程式の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	25
定期考査			○	○		1

2 学期	D 第4章【三角関数】 【知識及び技能】 角の概念を一般角まで拡張して、計算することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できる。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 角の拡張 三角関数 三角関数のグラフ 三角関数の性質 加法定理 加法定理の応用	【知識・技能】 三角関数の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 三角関数の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 三角関数の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	22
	定期考査			○	○		1
3 学期	E 第5章【指数関数と対数関数】 【知識及び技能】 指数関数・対数関数を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 指数関数・対数関数を事象の考察に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 指数関数・対数関数を事象の考察に活用しようとしている。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 指数の拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数	【知識・技能】 指数・対数の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 指数・対数の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 指数関数と対数関数の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	20
	定期考査			○	○		1
3 学期	F 第6章【微分法と積分法】 【知識及び技能】 微分・積分の意味について理解し、それらの有用性を認識する。 【思考力、判断力、表現力等】 微分・積分の有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 微分・積分の有用性を認識するとともに、事象の考察に活用しようとしている。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 微分係数 導関数とその計算 接線の方程式 関数の増減と極大・極小 関数の増減・グラフの応用 不定積分 定積分	【知識・技能】 微分法と積分法の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 微分法と積分法の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 微分法と積分法の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	26
	定期考査			○	○		1
							合計
							140

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科

数学 科目 数学Ⅱ(理系)

教科: 数学 科目: 数学Ⅱ(理系)

単位数: 4 単位

対象学年組: 第 2 学年 1, 2, 3, 4, 6, 7組

教科担当者: (1組理系、2、3組理系、6、7組理系:佐村)

使用教科書: (高等学校「数学Ⅱ」数研出版)

教科 数学 の目標:

【知識及び技能】 数学リテラシーを身に付ける。計算問題が解ける。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的思考方法を身に付ける。応用問題が解ける。

【学びに向かう力、人間性等】 数学的な法則や理論背景などを調べようとする態度を身に付ける。発展的な問題に取り組める。

科目 数学Ⅱ(理系) の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。また、これらの原理・法則を	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力。座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力。関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力。関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度。粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
第1章【式と証明】 【知識及び技能】 多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算ができる。 【思考力、判断力、表現力等】 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解しようとする。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 3次式の展開と因数分解 二項定理 多項式の割り算 分数式とその計算 恒等式 等式の証明 不等式の証明	【知識・技能】 多項式の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 多項式の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 多項式の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	22
定期考査			○	○		1
第2章【複素数と方程式】 【知識及び技能】 方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 複素数についての理解を深め、方程式を解こうとする。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 複素数とその計算 2次方程式の解 解と係数の関係 剰余の定理と因数定理 高次方程式	【知識・技能】 方程式の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 方程式の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 方程式の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	20
第3章【図形と方程式】 【知識及び技能】 座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識する。 【思考力、判断力、表現力等】 座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現できる。 【学びに向かう力、人間性等】 図形と方程式の有用性を認識するとともに、事象の考察に活用しようとする。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 直線上の点 平面上の点 直線の方程式 直線の関係 円の方程式 円と直線	【知識・技能】 図形と方程式の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 図形と方程式の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 図形と方程式の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	25
定期考査			○	○		1
第4章【三角関数】 【知識及び技能】 角の概念を一般角まで拡張して、計算することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できる。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 角の拡張 三角関数 三角関数のグラフ 三角関数の性質 三角関数の応用 加法定理 加法定理の応用	【知識・技能】 三角関数の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 三角関数の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 三角関数の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	22
定期考査			○	○		1
第5章【指数関数と対数関数】 【知識及び技能】 指数関数・対数関数を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 指数関数・対数関数を事象の考察に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 指数関数・対数関数を事象の考察に活用しようとする。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 指数の拡張 指数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数	【知識・技能】 指数・対数の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 指数・対数の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 指数関数と対数関数の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	20
定期考査			○	○		1
第6章【微分法と積分法】 【知識及び技能】 微分・積分の意味について理解し、それらの有用性を認識する。 【思考力、判断力、表現力等】 微分・積分の有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】 微分・積分の有用性を認識するとともに、事象の考察に活用しようとする。	・教科書 高等学校「数学Ⅱ」数研出版 ・一人1台端末の活用 ・指導項目 微分係数 導関数とその計算 接線の方程式 関数の増減と極大・極小 関数の増減・グラフの応用 不定積分 定積分 定積分と面積	【知識・技能】 微分法と積分法の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 微分法と積分法の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 微分法と積分法の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	26
定期考査			○	○		1
合計						140

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科

数学 科目 数学B

教科: 数学 科目: 数学B 単位数: 2 単位

対象学年組: 第2学年 1,2,3,6,7 組

教科担当者: (1組理系: 田草川、2,3組理系: 6,7組理系佐村)

使用教科書: (高等学校「数学B」数研出版)

教科 数学 の目標:

【知識及び技能】 数学リテラシーを身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的思考方法を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】 数学的な法則や理論背景などを調べようとする態度を身に付ける。

科目 数学B の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、現象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現、処理したりする技能を身に付ける。	漸变的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力。確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力。日常の事象や社会の現象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養っている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度。粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養っている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	担当時数		
1学期	第1章【数列】 A第1節 等差数列と等比数列 【知識及び技能】 数列やその一般項の表し方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】基本的な数列として等差数列を理解し、それらの和を求められる。 【学びに向かう力、人間性等】 数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養っている。	・教科書 高等学校「数学B」数研出版 指導項目 数列と一般項 等差数列 等比数列の和 和の記号	【知識・技能】 等差数列の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 等差数列の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 等差数列の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	11	
	定期テスト		○	○		1		
	第1章【数列】 B第1節 等差数列と等比数列 【知識及び技能】 数列やその一般項の表し方について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】基本的な数列として等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養っている。	・教科書 高等学校「数学B」数研出版 指導項目 階差数列	【知識・技能】 等比数列の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 等比数列の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 等比数列の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	12	
定期テスト		○	○		1			
2学期	C第2節 いろいろな数列 等差数列と等比数列の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできる。 【学びに向かう力、人間性等】 数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養っている。	・教科書 高等学校「数学B」数研出版 指導項目 漸化式 階差数列 いろいろな数列の和	【知識・技能】 Σ記号の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 Σ記号の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 Σ記号の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	12	
	定期テスト		○	○		1		
	D第2節 いろいろな数列 【知識及び技能】 等差数列と等比数列の記号Σの表し方や性質を理解し、活用できる。 【思考力、判断力、表現力等】 いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできる。 【学びに向かう力、人間性等】 数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養っている。	・教科書 高等学校「数学B」数研出版 一人1台端末の活用 指導項目 数学的帰納法	【知識・技能】 階差数列の計算の基本が理解できる。 【思考・判断・表現】 階差数列の計算の表記方法を正しく理解し、表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 階差数列の計算を利用し、様々な問題を解くことができる。	○	○	○	12	
定期テスト		○	○		1			
3学期	第2章 統計的な推測 D 推定・仮説検定 【知識及び技能】 標本比率が二項分布に従う仕組みを理解し、正規分布で近似することで標本比率についての確率を求めることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 大数の法則について理解し、標本の大きさnが大きくなるときの標本平均の分布の変化の様子について考察できる。 【学びに向かう力、人間性等】 大数の法則に興味をもち、標本の大きさnが大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。	・教科書 一人1台端末の活用 指導項目 母集団と標本 標本平均の分布	【知識・技能】 標本比率が二項分布に従う仕組みを理解し、正規分布で近似することで標本比率についての確率を求めることができる。 【思考・判断・表現】 大数の法則について理解し、標本の大きさnが大きくなるときの標本平均の分布の変化の様子について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 大数の法則に興味をもち、標本の大きさnが大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。		○	○	○	9
	定期考査			○	○	○	1	
	第2章 統計的な推測 D 推定・仮説検定 【知識及び技能】 仮説検定の考え方を活用して、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 仮説検定の考え方がわかる。片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするかを正しく判断できる。 【学びに向かう力、人間性等】 仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。	・教科書 一人1台端末の活用 指導項目 推定 仮説検定	【知識・技能】 仮説検定の考え方を活用して、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。 【思考・判断・表現】 仮説検定の考え方がわかる。片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするかを正しく判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。	○	○	○	9	
定期考査			○	○	○	1		
合計						70		

高等学校 令和8年度（2学年用）教科

地歴 科目 日本史探究

教科：地歴 科目：日本史探究 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 2～7組

教科担当：（2・3組：金子、4組：土井、5組：金子、6・7組：土井）

使用教科書：（山川出版社『詳説日本史』）

教科 地歴 目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

科目 日本史探究 目標：

Table with 3 columns: 【知識及び技能】、【思考力、判断力、表現力等】、【学びに向かう力、人間性等】. Each column contains detailed learning objectives for the subject.

Main curriculum table with columns: 単元の具体的な指導目標, 指導項目・内容, 評価規準, 知, 思, 感, 記当該数. It details the content and assessment for various historical periods like the Yayoi, Kofun, Asuka, and Heian periods.

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

地歴 科目 世界史探究

教科：地歴

科目：世界史探究

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1,2,3,6,7 組

教科担当者：（土田）

使用教科書：（実教出版 『世界史探究』）

教科 地歴

の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

科目 世界史探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界史の基礎的知識を身に付け、日常生活の中で見られる事象と関連付けることができる。	歴史的知識を使い、多角的・多面的に考察する力を身に付ける。また、考察身近な生活や世界各地で起きている事象と結び付け、各自の価値観に則り、自身の考えを表現することができる。	人類が直面している世界的な課題について、よりよい社会の実現のために主体的に調査し、自分事として考えを構築する姿勢を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 文明の成立と古代文明の特質 ◆自然環境と人々の関係を視点にして、人類が地域ごとに多様な生活を育んできたことを理解し文明の功罪について探究させる。	◆文明の成立と古代文明の特質 (文明の誕生、古代オリエント文明とその周辺、南アジアの古代文明、南北アメリカ文明)	【知識・技能】 基本的な知識が身に付いている。 【思考・判断・表現】 各地の文明の共通点と相違点を理解し、文明が環境に与えた影響を自分の言葉で説明できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的事実を自分事としてとらえ、現代の諸課題に置き換えて思考することができている。	○	○	○	17
	B 中央ユーラシアと東アジア世界、南アジア世界と東南アジア世界の展開 ◆各地の国家・社会、文化の特徴を比較して、その共通点や相違点を理解する。 ◆現代まで残る宗教の成立と展開の過程を理解し、「宗教がもつ影響力」について探究させる。	◆中央ユーラシアと東アジア世界 ◆南アジア世界と東南アジア世界の展開	【知識・技能】 基本的な知識が身に付いている。 【思考・判断・表現】 宗教の成立過程と展開を理解した上で、「宗教がもつ影響力」について自分の言葉で表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的事実を自分事としてとらえ、現代の諸課題に置き換えて思考することができている。	○	○	○	
	定期考査			○	○		1
	C 西アジアと地中海周辺の国家形成 ◆古代イラン・ギリシア・ローマの政治体制を踏まえて、望ましい政治体制について探究させる。	◆西アジアと地中海周辺の国家形成 (イラン諸国家の興亡とイラン文明、ギリシア世界、ローマと地中海支配、キリスト教の成立と発展)	【知識・技能】 基本的な知識が身に付いている。 【思考・判断・表現】 古代世界における「専制主義」と「民主主義」の問題点を理解した上で、自分の意見を表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的事実を自分事としてとらえ、現代の諸課題に置き換えて思考することができている。	○	○	○	17
D イスラームの成立とヨーロッパ社会の形成、ヨーロッパ世界の変容と展開 ◆「キリスト教とイスラーム教は仲が悪い、という言説は正しいのか？」	◆イスラームの成立とヨーロッパ社会の形成 ◆ヨーロッパ世界の変容と展開	【知識・技能】 基本的な知識が身に付いている。 【思考・判断・表現】 イスラーム世界とキリスト教世界の成り立ちを理解し、「キリスト教とイスラーム教は仲が悪い、という言説は正しいのか？」という問いについて自分の考えを表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的事実を自分事としてとらえ、現代の諸課題に置き換えて思考することができている。	○	○	○		
	定期考査			○	○		1

2 学 期	E 東アジアの展開とモンゴル帝国 ◆「世界の一体化（グローバル化）」がどのように進展したのかを理解し、その功罪を探究させる。	◆東アジアの展開とモンゴル帝国 ◆大交易・大交流の時代 ◆アジア諸帝国の繁栄	【知識・技能】 基本的な知識が身に付いている。 【思考・判断・表現】 モンゴル帝国の歴史的意義を理解した上で、「世界の一体化（グローバル化）」の功罪について自分の考えを表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的事実を自分事としてとらえ、現代の諸課題に置き換えて思考することができている。	○	○	○	20
	F 産業革命と環大西洋革命 ◆産業革命と環大西洋革命が世界に与えた影響を探究し、どのように世界が変化したのかを表現させる。	◆産業革命と環大西洋革命 ◆イギリスの優位と欧米国民国家の形成 ◆アジア諸地域の動揺 ◆帝国主義とアジアの民族運動	【知識・技能】 基本的な知識が身に付いている。 【思考・判断・表現】 産業革命と環大西洋革命が世界に与えた影響を探究し、どのように世界が変化したのかを表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的事実を自分事としてとらえ、現代の諸課題に置き換えて思考することができている。	○	○	○	
	定期考査			○	○		1
	G 第一次世界大戦と第二次世界大戦 ◆「国民国家」の形成をもたらした「排外主義」について理解し、「国民として1つにまとまること」の功罪について自分の考えを表現できる。	◆第一次世界大戦と社会の変容 ◆第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	【知識・技能】 基本的な知識が身に付いている。 【思考・判断・表現】 「国民として1つにまとまること」の功罪について自分の考えを表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的事実を自分事としてとらえ、現代の諸課題に置き換えて思考することができている。	○	○	○	20
定期考査			○	○		1	
3 学 期	H 冷戦と今日の世界 ◆現代の社会情勢が形成された過程を理解し、地球社会の課題を探究させる。	◆冷戦と第三世界の台頭 冷戦の展開、第三世界の台頭とキューバ危機、冷戦体制の動揺 ◆冷戦の終結と今日の世界	【知識・技能】 基本的な知識が身に付いている。 【思考・判断・表現】 「わたしたちは科学技術の進歩にどこまで責任を持つべきか」について自分の考えを表現できている。 【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的事実を自分事としてとらえ、現代の諸課題に置き換えて思考することができている。	○	○	○	26
	◆現代の社会情勢が形成された過程を理解した上で、地球社会の課題を探究させる。		【知識・技能】 基本的な知識が身に付いている。 【思考・判断・表現】 学んだ知識を活用しながら、自ら問いを立てて地球社会の課題について探究することができている。 【主体的に学習に取り組む態度】 歴史的事実を自分事としてとらえ、現代の諸課題に置き換えて思考することができている。	○	○	○	
	定期考査			○	○		1
							合計
							105

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～7組

教科担当者：（柴田）

使用教科書：（教育図書 新訂版 高等学校 公共）

教科 公民 の目標：

【知識及び技能】選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して深まされる、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
学習を通じて、現代社会の諸課題に関する基礎的な知識を習得するとともに、諸資料から倫理的及び、社会的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、社会課題に対する見方・考え方は多様であり、多面的であることを重視し、その複数性の中で生徒が自ら考え、対話を通じて課題に向き合う姿勢を養うことで、公共的存在としての資質・能力や自分の考えを伝える表現力を身に付ける。	様々な社会問題を身近なテーマと結び付けて考察する態度を養うとともに、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、主体的・対話的な学びを通して、相互に尊重し、協力し合うことの大切さについて、生徒が社会の担い手であるという自覚を

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 【公共と人】 人間は個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに対話を通して互いの立場を理解し高め合う存在であることを理解する。	・公共的な空間と人との関わり、対話 ・青年期とその課題 ・社会秩序と自由と正義の実現 ・日本の伝統思想と外来思想 ・世界の宗教 ○教材 教科書、プリント、PC	【知識・技能】 ・自分自身が公共的空間の主体となり、自分のキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解している。 ・選択・判断の手掛かりとして功利主義、義務論などの考え方について理解している。 【思考・判断・表現】 地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共空間を作る存在であることを多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 現代の諸課題を主体的に解決しようとし、公共的空間に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めている。	○	○	○	6
2 【公共と倫理】 功利主義や義務論の考え方から水俣病や温暖化問題・地球環境問題について考え、どう行動すべきことが重要かを理解する。	・功利主義と義務論 ・水俣病を考える ・地球温暖化問題 ○教材 教科書、プリント、PC	【知識・技能】 ・功利主義と義務論の相違、感性和理性の相違を理解している。 ・経済成長と公害の相反関係について理解している。 ・温暖化の原因、温暖化防止のための取り組みについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・功利主義のと義務論を手掛かりに水俣病や地球環境問題について思考し、身の回りの生活と、世界規模の視点の双方の観点から、自分の考えを表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 規模の大きい課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	3
定期考査			○	○		1
3 【公共の基本原則】 人間の尊厳と平等、個人の権利、公共利益と社会の安定等の大切さ、公共的な空間に生じる課題について理解させる。	・民主政治と人権の歴史 ・日本国憲法と個人の権利、人権保障 ○教材 教科書、プリント、PC	【知識・理解】 人間の尊厳や平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共空間における基本的原理を日本国憲法に基づき、社会生活との関連を理解している。 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について日本国憲法を踏まえて理解している。 【思考・判断・表現】 公共空間の基本原則を概念的な枠組みや思考実験を通して考察し、個人と社会の関わりを多面的・多角的に分析しながら、自分の考えを論理的に表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 公共的な空間における基本的原理について、日本国憲法を踏まえて現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	14
定期考査			○	○		1

2 学 期	4【法の意義と司法参加】 法の基本的な考え方を正確に理解した上で、身近な課題について多様な意見を考慮し、自分の判断や意見を論理的に表現することを通じて、法の意義や司法への関わり方を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・法と社会 ・多様な契約 ・消費者の権利と責任 ・日本の司法制度 ・国民の司法参加 ○教材 教科書、プリント、PC	【知識・理解】 法や規範の意義、役割、多様な契約、消費者の権利と責任、司法参加の意義に関する社会的課題を通して、憲法に基づき適正手続きを守りながら、意見や利害を公平・公正に調整し、紛争を解決することで、権利や自由が保障され社会秩序が維持されることを理解している。 【思考・判断・表現】 自立した政治主体として解決が求められる具体的な課題について、合意形成や社会参画を意識しながら、事実に基づき協働で考察・構想し、その考えを論拠とともに表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 法や規範の意義、多様な契約、消費者の権利・責任、司法参加の意義に関わる課題の解決を視野に入れ、積極的に社会や学習活動に主体的に関わろうとしている。	○	○	○	7
	5【民主社会と政治参加】 政治の意義や統治の仕組み、よりよい社会づくりのための取り組みについて、自分の考えを表現する活動を通して、政治参加や公正な世論の形成、地方自治の重要性を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・国会と内閣 ・地方自治 ・選挙と政治参加 ・公正な世論の形成 ○教材 教科書、プリント、PC	【知識・理解】 政治参加や公正な世論の形成、地方自治に関する現実の課題を通して、よりよい社会は憲法のもとで個人が議論に参加し、意見や利害を調整して合意を築くことによって形成されることを理解している。 【思考・判断・表現】 自立した政治主体として解決が求められる具体的な課題について、合意形成や社会参画を意識しながら、事実に基づき協働で考察・構想し、その考えを論拠とともに表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 政治参加や公正な世論の形成、地方自治に関わる課題の解決を意識し、積極的に社会や学習活動に主体的に関わろうとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
3 学 期	6【国際社会と日本の関係】 国家主権や領土、我が国の安全保障・防衛、国際貢献を含む国際社会における役割などの現実的課題を通して、主権国家の行動を規律し国際秩序を形成する国際法の意義や役割、領土が領海・領空を含む国民生活や資源を保障するものであること、さらに国際社会における我が国の貢献の重要性を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・国家主権と領土問題 ・安全保障と防衛 ・国際連合の役割 ・国際社会と日本 ○教材 教科書、プリント、PC	【知識・理解】 国家主権や領土（領海・領空を含む）、日本の安全保障・防衛、国際貢献などに関する現実的課題を通して、よりよい社会は憲法のもとで個人が議論に参加し、意見や利害を調整して合意を形成することによって築かれることを理解している。 【思考・判断・表現】 自立した政治主体として取り組むべき具体的な課題について、合意形成や社会参画を意識しながら、事実に基づき協働で考察・構想し、その考えを論拠とともに表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 国家主権や領土（領海・領空を含む）、日本の安全保障・防衛、国際貢献などに関わる課題の解決を意識し、積極的に社会や学習活動に主体的に関わろうとしている。	○	○	○	7
	7【豊かな社会の実現】 変化する産業構造や労働のあり方、社会保障の意義や課題を正しく理解した上で、国民福祉の向上に向けた取り組みについて自分の考えを表現することを通して、職業選択や雇用・労働問題、少子高齢社会における社会保障の役割などの諸問題を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・職業選択 ・現代の企業 ・雇用と労働 ・労働者の権利 ・少子化と社会保障 ○教材 教科書、プリント、PC	【知識・理解】 職業選択や雇用・労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実、安定化に関する現実的課題を通して、公正かつ自由な経済活動による資源の効率的配分や市場経済の機能、政府の役割、そして経済活動の活性化と個人の尊重の両立の必要性を理解している。 【思考・判断・表現】 自立した政治主体として取り組むべき具体的な課題について、合意形成や社会参画を意識しながら、事実に基づき協働で考察・構想し、その考えを論拠とともに表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 職業選択や雇用・労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実、安定化に関する課題の解決を意識し、積極的に社会や学習活動に主体的に関わろうとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
3 学 期	8【市場経済のしくみ】 希少な資源の効率的な配分を実現する市場メカニズムや市場経済の機能と限界、金融の仕組み、さらに財政や租税の役割について理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の役割と限界 ・経済成長と景気変動 ・金融のはたらき ・日本銀行と金融政策 ・財政の役割 ・財政のしくみと国債 ○教材 教科書、プリント、PC	【知識・理解】 市場経済の仕組みや限界、金融の役割、財政や租税の働きに関する現実的課題を通して、公正かつ自由な経済活動によって資源が効率的に配分されること、市場経済の機能や国民福祉への貢献に政府が果たす役割、そして経済活動の活性化と個人の尊重の両立の必要性を理解している。 【思考・判断・表現】 自立した経済主体として取り組むべき具体的な課題について、合意形成や社会参画を意識しながら、事実に基づき協働で考察・構想し、その考えを論拠とともに表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 市場経済の機能や限界、金融、財政・租税の役割に関わる課題の解決を意識し、積極的に社会や学習活動に主体的に関わろうとしている。	○	○	○	8
	9【国際経済の動向と格差の是正】 グローバル化によって経済活動が世界規模で行われている現状を正しく理解し、貧困や格差のないよりよい国際社会の実現に向けた取り組みについて自分の考えを表現することを通して、経済のグローバル化や相互依存の深化、国際社会における貧困や格差の問題を理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易と為替 ・グローバル化と経済統合 ・格差是正と多文化主義 ○教材 教科書、プリント、PC	【知識・理解】 経済のグローバル化や相互依存の深まり（国際社会の貧困や格差を含む）に関する現実的課題を通して、公正かつ自由な経済活動による資源の効率的配分、市場経済の機能や国民福祉への貢献における政府の役割、そして経済活動の活性化と個人の尊重の両立の必要性を理解している。 【思考・判断・表現】 自立した経済主体として取り組むべき具体的な課題について、合意形成や社会参画を意識しながら、事実に基づき協働で考察・構想し、その考えを論拠とともに表現できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む）などに関わる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
							合計
							70

高等学校 令和8年度（2学年用）教科

理科 科目 化学

教科：理科 科目：化学

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組2組3組6組7組

教科担当者：（向坪）

使用教科書：（「高等学校 化学」啓林館）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 科学リテラシーを身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的思考方法を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】 科学的調査方法を身に付ける。

科目 化学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質や物質現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質や物質が変化する現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質や物質が変化する現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	A 第1節 化学結合と結晶 ・化学結合とそれぞれの性質、及び結晶構造を理解させる。	自由電子、金属結合、イオン結合、共有結合、分子、配位結合、極性分子、無極性分子、結晶、単位格子、配位数、金属結晶、イオン結晶、分子結晶、共有結合結晶	【知識・技能】 化学結合の種類と、それぞれの性質について理解することができる。 【思考・判断・表現】 結晶の構造(体心立方格子、面心立方格子、六方最密構造など)について考えることができる。	○	○	○	17
	B 第2節 結晶の構造 ・結晶の構造を理解させる。	体心立方格子、面心立方格子、六方最密構造、最密構造、充填率、ファンデルワールス力、水素結合、分子間力	【学びに向かう力、人間性等】 授業態度・実験・実習におけるレポートによる。				
	C 第3節 アモルファス(非晶質) ・アモルファスの性質を理解させる。	アモルファス、非晶質	【知識・技能】 アモルファス・エタキンの性質を理解することができる。 【思考・判断・表現】 アモルファス・エタキンの性質について振り返って、日常生活や社会に生かそうとする。	○	○	○	
	D 第1節 状態変化 ・状態変化に伴うエネルギーの出入りを学び、物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連づけて理解させる。	熱運動、融解熱、蒸発熱、昇華熱、凝縮熱、凝固点、凝固熱、過冷却	【学びに向かう力、人間性等】 授業態度・実験・実習におけるレポートによる。	○	○	○	
定期考査				○	○		1
2 学 期	E 第2節 気体の状態方程式 ・気体定数と状態方程式、分子量の関係を理解させる。	気体定数、気体の状態方程式、全圧、分圧、分圧の法則、モル分率、理想気体	【知識・技能】 気体の体積の変化・溶液について理解することができる。 【思考・判断・表現】 溶液の性質や気体の体積と圧力や温度との関係や、ボイル・シャルルの法則について考えることができる。	○	○	○	17
	F 第1節 溶解と溶解度 ・溶解の仕組みを理解させること。また、溶解度を溶解平衡と関連づけて理解させる。	溶解、溶媒、溶質、溶液、水溶液、極性溶媒、無極性溶媒、水和、水和イオン、親水基、疎水基(親油基)	【学びに向かう力、人間性等】 授業態度・実験・実習におけるレポートによる。	○	○	○	
	G 第2節 希薄溶液の性質 ・身近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解させる。	飽和溶液、溶解平衡、溶解度、水和物、水和水、結晶水、無水物、無水塩、再結晶、過飽和、ヘンリーの法則、質量パーセント濃度、質量モル濃度	【知識・技能】 希薄溶液の性質について理解することができる。 【思考・判断・表現】 身近な現象を通して溶媒と溶液の性質(蒸気圧低下、沸点上昇、凝固点低下、浸透圧など)の違いについて考えることができる。	○	○	○	
	H 第3節 コロイド ・コロイド溶液の性質を理解させる。	コロイド粒子、コロイド、コロイド溶液(ゾル)、ゲル、キセロゲル、分散質、分散媒、分子コロイド、ミセル、会合コロイド(ミセルコロイド)、分散コロイド、懸濁液、乳濁液、チンダル現象、ブラウン運動、透析、電気泳動、疎水コロイド、凝析、親水コロイド、塩析、凝集、保護コロイド	【学びに向かう力、人間性等】 授業態度・実験・実習におけるレポートによる。	○	○	○	
定期考査				○	○		1
3 学 期	I 第1節 反応エンタルピーとエンタルピー ・化学反応における熱の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。	温度、熱、熱量、熱容量、比熱、反応エンタルピー、エンタルピー変化 ΔH 、エンタルピー-H ₂ 系、外界、エネルギー図、発熱反応、吸熱反応、反応エンタルピー [kJ/mol]	【知識・技能】 反応エンタルピーについてその種類や化学反応式とエンタルピー変化での表し方について理解することができる。 【思考・判断・表現】 化学反応における熱の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを考えることができる。	○	○	○	19
	J 第2節 ヘスの法則 ・物質が変化するとき出入りする熱量(反応エンタルピー)は、最初と最後の状態だけで決まり、反応経路には無関係であることを理解させる。	ヘスの法則、結合エネルギー	【学びに向かう力、人間性等】 授業態度・実験・実習におけるレポートによる。	○	○	○	
	K 第3節 化学反応と光 ・化学反応における光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを理解させる。	光合成、光電極、光触媒、化学発光、生物発光電池、負極、正極、負極活性物質、正極活性物質、起電力、ダニエル電池、放電、充電、二次電池(蓄電池)、一次電池、鉛蓄電池、燃料電池、アルカリリマンガン乾電池、リチウムイオン電池	【知識・技能】 化学反応における発光や光合成のしくみをエンタルピーとの関係から理解することができる。 【思考・判断・表現】 化学反応における光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつエンタルピーの差であることを考えることができる。	○	○	○	
	L 第1節 電池 ・電池は、酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みであることを理解させる。	電池は、酸化還元反応によって電気エネルギーを取り出す仕組みであることを理解させる。	【学びに向かう力、人間性等】 授業態度・実験・実習におけるレポートによる。	○	○	○	
定期考査				○	○		1
3 学 期	M 第2節 電気分解 ・外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解させる。また、その反応に関与した物質の変化量と電気量との関係について理解させる。	電気分解(電解)、陰極、陽極、溶融塩電解、ファラデー定数、電解精錬、陽極泥	【知識・技能】 電気分解における陽極、陰極それぞれの反応を知り、電気分解の原理を理解することができる。 【思考・判断・表現】 外部から加えた電気エネルギーによって、電極で酸化還元反応が起こることを理解する。また、その反応に関与した物質の変化量と電気量との関係について考えることができる。	○	○	○	28
	N 第1節 反応の速さ ・反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解させる。	反応速度、反応速度式(速度式)、反応速度定数(速度定数)、反応次数、一次反応、二次反応、半減期、活性化エネルギー、遷移状態、触媒、アレニウスの式、均一系触媒(均一触媒)、不均一系触媒(不均一触媒)、三元触媒、ラジカル(遊離基)、連鎖反応、素反応、多段階反応、律速段階	【学びに向かう力、人間性等】 授業態度・実験・実習におけるレポートによる。	○	○	○	
	O 第2節 化学反応と触媒 ・化学反応の仕組みを理解させ、反応速度を速める触媒について理解させる。			○	○		
定期考査				○	○		1
合計							105

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

理科 科目 地学基礎

教科：理科

科目：地学基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1, 2, 3, 5, 6, 7組 岩淵、4組 南川）

使用教科書：（実教出版 地基007-901 「地学基礎 新訂版」）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】科学リテラシーを身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】論理的思考方法を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】科学的調査方法を身に付ける。

科目 地学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙や自然現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養っている。	宇宙や自然現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養っている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A 活動する地球 【知識・技能】 地球の概形やプレートテクトニクスの仕組みを学び、地殻で起こる地学的現象について理解させる。 【思考・判断・表現】 地球の大きさの測定や、プレート運動と地震・火山や大地形の関係について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 1 地球の形と大きさ 2 地球の構造 3 プレートテクトニクスと地殻変動 4 プレート運動のしかた ・教材 教科書、図表、自作プリント ICT機器、PC等	【知識・技能】 ・適切に位置情報や機器を利用し、地球の大きさやプレートの移動速度を求められる。 ・3種類のプレート境界と大地形や地震・火山などの地殻変動との関係がわかる。 【思考・判断・表現】 ・地球が球である証拠を理解したり、回転楕円体について考えられる。 ・大地形や地殻変動に分布を見てプレートの運動について考えられる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実習方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	B 地震と火山 【知識・技能】 地震や火山が発生するメカニズムについて理解させる。 【思考・判断・表現】 3つのプレート境界と地震・火山との関係について考える。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 5 地震 6 地震の分布 7 地震災害 8 火山活動 9 火山がもたらす恵みと災害 ・教材 教科書、図表、自作プリント 各種標本、ICT機器、PC等	【知識・技能】 ・地下構造と関連させて地震・火山が起こるメカニズムがわかる。 ・地震や火山の発生に伴って起こり得る現象や災害について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・地震の伝わり方を的確に理解し、震源決定をすることができる。 ・地震災害や火山災害について理解し、それに対する防災対策について考えられる。 ・火山の形やマグマの性質から噴火様式や火山災害を予測することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実験観察方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	11
定期考査			○	○		1	

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

理科 科目 物理基礎

教科： 理科

科目： 物理基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1・2・3・6・7組

教科担当者： (南川)

使用教科書： (啓林館 物基061-901「高等学校 物理基礎 改訂版」)

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】 科学リテラシーを身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 論理的思考方法を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】 科学的調査方法を身に付ける。

科目 物理基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や環境に関する考え方を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 物体の運動 【知識・技能】 物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に理解させる。 【思考・判断・表現】 物体の変位や速度などを考えたり、 $x-t$ グラフや $v-t$ グラフから物体の運動を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 速度 加速度 落体の運動 ・教材 教科書、自作プリント ICT機器、PC等	【知識・技能】 物体の加速度や加速度運動を理解することができる。 【思考・判断・表現】 物体による速度の変化の様子に興味を持ち、その違いについて調べようとする。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実習方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	B 力と運動 【知識・技能】 様々な力がはたらくときの物体の運動を理解させる。 【思考・判断・表現】 摩擦力や浮力、圧力など物体にはたらく様々な力と、その作用による物体の運動がわかる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に工夫して取り組み、振り返りを通して自らを向上させる。	・指導事項 力 運動の法則 様々な力と運動 ・教材 教科書、自作プリント ICT機器、PC等	【知識・技能】 物体の質量や物体にはたらく力を変えて物体の運動を調べ、運動の様子をグラフに表すことができる。 【思考・判断・表現】 力がはたらいた物体の運動の様子から運動の三法則を確認し、グラフを作成して運動方程式を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習方法や実験観察方法を工夫している。 ・学習内容に関連する事柄を調べている。 ・学習を振り返り、課題を分析している。	○	○	○	11
定期考査			○	○		1	

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科

保健体育 科目 保健

教科: 保健体育 科目: 保健

単位数: 1 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組~ 7 組

教科担当者: (1.2組: 鎌田) (3.4組: 小林) (5.6.7組: 鈴木)

使用教科書: (現代高等保健体育 大修館書店)

教科 保健体育 の目標:

【知識及び技能】 自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、現代社会と健康について理解する。

【思考力、判断力、表現力等】 疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。

【学びに向かう力、人間性等】 個人及び社会生活における健康・安全に関する内容について科学的に思考・判断し、総合的に捉えることができる。

科目 保健 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・自他の健康課題を把握できている。 ・課題解決の方法を実践できる技能が定着している。 ・疾病予防の知識が理解できている。	・疾病のリスク軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりについて科学的に思考・判断し総合的にとらえることができる	・個人の課題のみならず社会全体の課題としてとらえる視野を養っている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	A 単元『生涯を通じる健康』 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し理解を深め、その解決を目指した活動を身に付けることができる。	オリエンテーション ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康 中高年期と健康	【知識及び技能】 我が国の健康問題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国の健康課題など、理解したことを整理し、道筋を立てて説明したり、ノートなどに記述したりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 我が国の健康問題について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	11	
	定期考査			○	○		1	
2 学期	B 単元『生涯を通じる健康』 『健康を支える環境づくり』 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し理解を深め、その解決を目指した活動を身に付けることができる。	働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活 大気汚染と健康 環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生に関わる活動	知識及び技能 我が国の健康問題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国の健康課題など、理解したことを整理し、道筋を立てて説明したり、ノートなどに記述したりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 我が国の健康問題について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	12	
	定期考査			○	○		1	
3 学期	C 単元『健康を支える環境づくり』	保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医薬品の制度とその活用 さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加	知識及び技能 我が国の健康問題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 我が国の健康課題など、理解したことを整理し、道筋を立てて説明したり、ノートなどに記述したりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 我が国の健康問題について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	9	
	定期考査			○	○		1	
							合計	35

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科

保健体育 科目 体育

教科: 保健体育 科目: 体育

単位数: 2 単位

対象学年組: 第2学年 1組~7組

教科担当者: (1組: 鎌田・小林) (2・3組: 鎌田・小林・鈴木) (4・5組: 鎌田・小林・柳澤) (6・7組: 鎌田・小林・柳澤)

使用教科書: (「現代高等保健体育」 大修館書店)

教科 保健体育

の目標:

【知識及び技能】 運動特性に応じた技能など及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養っている。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養っている。

科目 体育

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することが出来るようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付ける。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間と考えたことを他者に伝える力を養っている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養っている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	感	配当 時数	
1 学期	A 体ほぐし ・オリエンテーション ・体力を総合的に高める運動および今後のスポーツの基礎となる走・跳・投の各運動を行う。	・ストレッチング ・スタートダッシュ ・各種跳躍運動 ・ハンドボール投げ ・体重を使った筋力トレーニング(隔立伏せ等)	【知識・技能】 各種の動作を行い、体の調子に気付いたり関わりがあったりできた。 【思考・判断・表現】 各種の動作で自他の危険を回避し、安全に留意する活動方法を提案できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 一人一人の違いに応じた動きを大切に、主体的に取り組もうとした。	○	○	○	6
	B バドミントン(男子)	・ストローク ・クリア ・ドライブ ・サーブ ・ヘアピン ・スマッシュ ・簡易ゲーム	【知識・技能】 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連動した動きによって空間を作り出すなどの攻防ができる。 【思考・判断・表現】 各種の動作で自他の危険を回避し、安全に留意する活動方法を提案できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 一人一人の違いに応じた動きを大切に、主体的に取り組もうとした。	○	○	○	12
	C 卓球(男女)	・ストローク ・ドライブ、カット ・サーブ ・ラリー ・スマッシュ ・簡易ゲーム	【知識・技能】 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連動した動きによって空間を作り出すなどの攻防ができる。 【思考・判断・表現】 各種の動作で自他の危険を回避し、安全に留意する活動方法を提案できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 一人一人の違いに応じた動きを大切に、主体的に取り組もうとした。	○	○	○	
	D テニス(男女)	・ストローク ・ボレー ・サーブ ・ラリー ・簡易ゲーム	【知識・技能】 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連動した動きによって空間を作り出すなどの攻防ができる。 【思考・判断・表現】 各種の動作で自他の危険を回避し、安全に留意する活動方法を提案できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 一人一人の違いに応じた動きを大切に、主体的に取り組もうとした。	○	○	○	
	E ソフトボール(女子)	・キャッチ ・スロー ・トスバッティング ・フィールディング ・ピッチング ・簡易ゲーム	【知識・技能】 状況に応じたバット・グラブ操作や安定した用具の操作と連動した動きによって、打つ、捕る、投げる、走るを実施し、攻防ができる。 【思考・判断・表現】 各種の動作で自他の危険を振り返り、課題解決や安全に留意する活動方法を提案できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 一人一人の違いに応じた動きやフェアプレイを大切に、危険予測をしながら回行動をこなすなどを主体的に取り組もうとした。	○	○	○	9
	F 水泳 クロール、平泳ぎのキック、ストローク、コンビネーションを再確認する。	・水中歩行 ・バタ足 ・クロールのストローク ・平泳ぎのキック ・平泳ぎのストローク ・コンビネーション	【知識・技能】 各種泳法を理解し、手足のバランスを保ち長く又は早く泳ぐことができる。 【思考・判断・表現】 選択した泳法に浮いて、動きを分析し、良い点や修正点を指摘できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 安全に配慮し自他の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようすることができた。	○	○	○	
2 学期	水泳 平泳ぎ・背泳ぎのキック、ストローク、コンビネーションを再確認する。	・水中歩行 ・平泳ぎのキック ・平泳ぎのストローク ・背泳ぎのキック ・背泳ぎのストローク ・コンビネーション	【知識・技能】 各種泳法を理解し、手足のバランスを保ち、長く又は速く泳ぐことができる。 【思考・判断・表現】 選択した泳法において、動きを分析し、良い点や修正点を指摘できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 安全に配慮し自他の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようすることができた。	○	○	○	9
	G バドミントン(女子)	・ストローク ・クリア ・ドライブ ・サーブ ・ヘアピン ・スマッシュ ・簡易ゲーム	【知識・技能】 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連動した動きによって空間を作り出すなどの攻防ができる。 【思考・判断・表現】 各種の動作で自他の危険を回避し、安全に留意する活動方法を提案できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 一人一人の違いに応じた動きを大切に、主体的に取り組もうとした。	○	○	○	12
	H 卓球(男女)	・ストローク ・ドライブ、カット ・サーブ ・ラリー ・スマッシュ ・簡易ゲーム	【知識・技能】 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連動した動きによって空間を作り出すなどの攻防ができる。 【思考・判断・表現】 各種の動作で自他の危険を回避し、安全に留意する活動方法を提案できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 一人一人の違いに応じた動きを大切に、主体的に取り組もうとした。	○	○	○	
	I テニス(男女)	・ストローク ・ボレー ・サーブ ・ラリー ・簡易ゲーム	【知識・技能】 状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連動した動きによって空間を作り出すなどの攻防が出来る。 【思考・判断・表現】 各種の動作で自他の危険を回避し、安全に留意する活動方法を提案できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 一人一人の違いに応じた動きを大切に、主体的に取り組もうとした。	○	○	○	
	J ソフトボール(男子)	・キャッチ ・スロー ・トスバッティング ・フィールディング ・ピッチング ・簡易ゲーム	【知識・技能】 状況に応じたバット・グラブ操作や安定した用具の操作と連動した動きによって、打つ、捕る、投げる、走るを実施し、攻防が出来る。 【思考・判断・表現】 各種の動作で自他の危険を振り返り、課題解決や安全に留意する活動方法を提案できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 一人一人の違いに応じた動きやフェアプレイを大切に、危険予測をしながら回行動をこなすなどを主体的に取り組もうとした。	○	○	○	
3 学期	K 持久走 自己の心肺能力を知り、長い時間、長い距離を自分に適したペースで走り続けられるようになる。	・正しいランニングフォームの習得 ・適切な腕振りと呼吸法 ・1500m/2000mのペース走 ・1500m/2000mの計測 ・シャトルラン	【知識・技能】 効率的な走る姿勢と接地について理解でき、腕振りと呼吸について理解できた。 【思考・判断・表現】 適切なペース配分を知り、自己の持久力を評価できた。 【主体的に学習に取り組む態度】 毎時間の記録目標の設定が適切にできた。パートナーとの相互評価を実施できた。単元終了後の振り返りを適切にできた。	○	○	○	12
	L サッカー/バスケットボール (球技大会種目の練習)	・ルール/競技方法の確認 ・基本的技能の復習 ・対人技能/集団技能の復習 ・ゲーム	【知識・技能】 安定したボール操作や状況判断、空間を作る、使うなどの動きをゲームなどで行うことができる。 【思考・判断・表現】 体力や技術の程度を配慮して仲間とともに楽しむための練習やゲームを工夫することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 自他の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間への助言することで信頼関係を築き、互いに高めあうことができた。	○	○	○	10
						合計	70

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 芸術 I 科目 音楽 I

教科: 芸術 I 科目: 音楽 I 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組 ~ 7 組

教科担当: (島田)

使用教科書: (「改訂版 ON!」 音楽之友社)

教科 芸術 I の目標:

【知識及び技能】 芸術を表現したり鑑賞したりする際に必要な知識を習得するとともに、多様な作品についてそれぞれの思いや意図に基づいた表現が出来るための技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽 I の目標:

Table with 3 columns: 【知識及び技能】 (Understanding music styles, feeling beauty, listening skills), 【思考力、判断力、表現力等】 (Creative expression, feeling beauty, listening), and 【学びに向かう力、人間性等】 (Broadening activities, practical skills, cultural understanding).

Main lesson plan table with columns: 単元の具体的な指導目標, 指導項目・内容, 表現 (歌, 器, 創), 鑑賞, 評価規準, 知, 思, 意, 配当時間. Rows include A (独唱), B (ボディ・パーカッション・アンサンブル), C (アルトリコーダー), D (世界の歌・日本の歌), E (アルトリコーダーアンサンブル), F (ギター独奏), G (ミュージカル表現), H (リコーダーとギターのアンサンブル).

合計 70

高等学校 令和8年度(2学年用) 教科 芸術 I 科目 書道 I

教科: 芸術 I 科目: 書道 I 単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 1 組 ~ 7 組

教科担当者: (田中)

使用教科書: (書道 I 東京書籍)

教科 芸術 I の目標:

- 【知識及び技能】芸術の創造的な表現をするために必要な知識・技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】感性や想像力を働かせて、構想を練り工夫して表現する。
- 【学びに向かう力、人間性等】創造活動の喜びを味わい、芸術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞に取り組む。

科目 書道 I の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。	書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を身に付ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		漢	漢	仮						
1 学 期	A 単元; 書写で学んできたこと 【知識及び技能】 用筆・運筆から生み出される書の表現性とその効果について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体構成について構想し工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】 反復練習から清書の完成度が高まることを理解し、集中力や継続力を養う。	書写内容の復習 基本点画の復習	○		○	【知識・技能】 漢字と仮名の調和した線質や字形など基本点画の表現を捉えている。 【思考・判断力・表現】 補助教材の添削のポイントを基に自ら添削をし、改善すべき点を考察して清書に反映させている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・改善すべき点を意欲的に解決しようとしている。 ・授業時に反復練習し、清書の完成度を高めている。	○	○	○	2
	B 単元; 篆書の特徴 【知識及び技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己添削を通して古典の特徴を考えて臨書する。 【学びに向かう力、人間性等】 自己の意図に基づいた表現について構想し、工夫する。	篆書の学習 泰山刻石	○		○	【知識・技能】 泰山刻石に基づく用筆や運筆、字形や構成を活かした表現を身に付けている。 ・線の太さが一定 ・縦長の字形で左右対称 ・起筆は藏法 ・連なる線の間は等間隔 【思考・判断・表現】 補助教材の添削のポイントを基に自ら添削をし、改善すべき点を考察して清書に反映させている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・改善すべき点を意欲的に解決しようとしている。 ・授業時に反復練習し、清書の完成度を高めている。	○	○	○	2
	C 単元; 隸書の特徴 【知識及び技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己添削を通して古典の特徴を考えて臨書する。 【学びに向かう力、人間性等】 自己の意図に基づいた表現について構想し、工夫する。	隸書の学習 曹全碑	○		○	【知識・技能】 曹全碑に基づく用筆や運筆、字形や構成を活かした表現を身に付けている。 ・扁平な字形 ・滑らかな波線 ・起筆は藏法 ・丸みを帯びた点画 【思考・判断・表現】 補助教材の添削のポイントを基に自ら添削をし、改善すべき点を考察して清書に反映させている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・改善すべき点を意欲的に解決しようとしている。 ・授業時に反復練習し、清書の完成度を高めている。	○	○	○	4
	D 単元; 牛欄造像記 【知識及び技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己添削を通して古典の特徴を考えて臨書する。 【学びに向かう力、人間性等】 自己の意図に基づいた表現について構想し、工夫する。	楷書の学習 牛欄造像記	○		○	【知識・技能】 牛欄造像記に基づく用筆や運筆、字形や構成を活かした表現を身に付けている。 ・両太な運筆・鋭角的な三角形・右肩上がりの強い構成 【思考・判断・表現】 補助教材の添削のポイントを基に自ら添削をし、改善すべき点を考察して清書に反映させている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・改善すべき点を意欲的に解決しようとしている。 ・授業時に反復練習し、清書の完成度を高めている。	○	○	○	8
	E 単元; 九成宮醜泉銘 【知識及び技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己添削を通して古典の特徴を考えて臨書する。 【学びに向かう力、人間性等】 自己の意図に基づいた表現について構想し、工夫する。	楷書の学習 九成宮醜泉銘	○		○	【知識・技能】 九成宮醜泉銘に基づく用筆や運筆、字形や構成を活かした表現を身に付けている。 ・鋭い起筆と直線的な点画 ・縦長で、背勢の字形 【思考・判断・表現】 補助教材の添削のポイントを基に自ら添削をし、改善すべき点を考察して清書に反映させている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・改善すべき点を意欲的に解決しようとしている。 ・授業時に反復練習し、清書の完成度を高めている。	○	○	○	8

2 学 期	F 単元；楷書の特徴 【知識及び技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己添削を通して古典の特徴を考えて臨書する。 【学びに向かう力、人間性等】 自己の意図に基づいた表現について構想し、工夫する。	楷書の学習 孔子廟堂碑 雁塔聖教序 自書告身				○	○	【知識・技能】 各書風に基づく用筆や運筆、字形や構成を活かした表現を身に付けている。 孔子廟堂碑 ・ 自然な点画 ・ 縦長で向勢気味の字形 雁塔聖教序 ・ 抑揚ある用筆 ・ 方形で横の広い構成 自書告身 ・ 起筆が藏鋒で太い ・ 特徴的右払い 【思考・判断・表現】 補助教材の添削のポイントに基づき自ら添削をし、改善すべき点を考察して清書に反映させている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・改善すべき点を意欲的に解決しようとしている。	○	○	○	○	8
	G 単元；風信帖 【知識及び技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己添削を通して古典の特徴を考えて臨書する。 【学びに向かう力、人間性等】 自己の意図に基づいた表現について構想し、工夫する。	行書の学習 蘭亭序				○	○	【知識・技能】 蘭亭序に基づく用筆や運筆、字形や構成を活かした表現を身に付けている。 ・線の抑揚 ・ 曲線的な字形 ・ 立体感と多彩な表現 【思考・判断・表現】 補助教材の添削のポイントに基づき自ら添削をし、改善すべき点を考察して清書に反映させている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・改善すべき点を意欲的に解決しようとしている。 ・授業時に反復練習し、清書の完成度を高めている。	○	○	○	○	12
	H 単元；蘭亭序 【知識及び技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己添削を通して古典の特徴を考えて臨書する。 【学びに向かう力、人間性等】 自己の意図に基づいた表現について構想し、工夫する。	行書の学習 風信帖				○	○	【知識・技能】 蘭亭序に基づく用筆や運筆、字形や構成を活かした表現を身に付けている。 ・線の抑揚 ・ 縦長、右上がりの字形 【思考・判断・表現】 補助教材の添削のポイントに基づき自ら添削をし、改善すべき点を考察して清書に反映させている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・改善すべき点を意欲的に解決しようとしている。 ・授業時に反復練習し、清書の完成度を高めている。	○	○	○	○	12
3 学 期	I 単元；高野切第三種の臨書 【知識及び技能】 線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 自己添削を通して古典の特徴を考えて臨書する。 【学びに向かう力、人間性等】 自己の意図に基づいた表現について構想し、工夫する。	仮名の学習 高野切第三種				○	○	【知識・技能】 高野切第三種に基づく用筆や運筆、字形や構成を活かした表現を身に付けている。 ・多彩な連絡 ・ 単純明快な字形と伸びやかな線質 【思考・判断・表現】 補助教材の添削のポイントに基づき自ら添削をし、改善すべき点を考察して清書に反映させている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・改善すべき点を意欲的に解決しようとしている。 ・授業時に反復練習し、清書の完成度を高めている。	○	○	○	○	14
											合 計	70	

	<p>D Lesson 4</p> <p>【知識及び技能】 側注・脚注の語彙や、言語材料を理解し、その理解を基に、主題について書かれた文章を読み取る技能を身に付けさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり／書いたりできるようにさせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとする態度を育む。学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとする態度を育む。</p>	<p>【題材内容】 日本の自動販売機、海外の自動販売機についてのオンライン記事</p> <p>【言語材料】 関係代名詞（主格）、関係代名詞の非制限用法、関係代名詞（目的格）</p> <p>【言語の働き】 説明する、紹介する、意見を述べ、発表する、質問する</p>						<p>【知識及び技能】 側注・脚注の語彙や、言語材料を理解し、その理解を基に、主題について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり／書いたりできる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとする態度が見られる。</p>				14
	定期考査		○	○			○		○	○		1
	<p>E Lesson 5</p> <p>【知識及び技能】 側注・脚注の語彙や、言語材料を理解し、その理解を基に、主題について書かれた文章を読み取る技能を身に付けさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり／書いたりできるようにさせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとする態度を育む。学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとする態度を育む。</p>	<p>【題材内容】 ユニバーサルデザインのフォント、ブレイルノイエとその開発者の高橋鴻介氏へのインタビューについての雑誌記事</p> <p>【言語材料】 助動詞+受け身, S+V+C [分詞], S+V+O [if節], It seems [appears] + that節</p> <p>【言語の働き】 質問する、説明する、例示する、提案する、発表する</p>						<p>【知識及び技能】 側注・脚注の語彙や、言語材料を理解し、その理解を基に、主題について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり／書いたりできる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとする態度が見られる。</p>				14
	<p>F Lesson 6</p> <p>【知識及び技能】 側注・脚注の語彙や、言語材料を理解し、その理解を基に、主題について書かれた文章を読み取る技能を身に付けさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり／書いたりできるようにさせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとする態度を育む。学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとする態度を育む。</p>	<p>【題材内容】 2024年に新しく発行される紙幣にまつわる話やキャッシュレス化についてのオンライン記事</p> <p>【言語材料】 It + is [was] + said + that 節, 形式目的語it + that 節, 形式目的語it + to 不定詞, 助動詞+have+過去分詞</p> <p>【言語の働き】 説明する、意見を述べる、賛成する、反対する、理由を述べる、発表する、質問する</p>						<p>【知識及び技能】 側注・脚注の語彙や、言語材料を理解し、その理解を基に、主題について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり／書いたりできる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとする態度が見られる。</p>				14
	定期考査		○	○			○		○	○		1
2 学 期	<p>G Lesson 7</p> <p>【知識及び技能】 側注・脚注の語彙や、言語材料を理解し、その理解を基に、主題について書かれた文章を読み取る技能を身に付けさせる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり／書いたりできるようにさせる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとする態度を育む。学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとする態度を育む。</p>	<p>【題材内容】 色が私たちに与える影響や色の持つ心理的効果についての論説文</p> <p>【言語材料】 関係代名詞（所有格）、同格を表す接続詞that、前置詞+関係代名詞、関係副詞whereの非制限用法</p> <p>【言語の働き】 説明する、提案する、理由を述べる、意見を述べる、質問する</p>						<p>【知識及び技能】 側注・脚注の語彙や、言語材料を理解し、その理解を基に、主題について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握し、学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり／書いたりできる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしようとする態度が見られる。</p>				14

高等学校 令和8年度(2学年用)教科

外国語(英語) 科目 論理・表現Ⅱ

教科: 外国語(英語)

科目: 論理・表現Ⅱ

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 2 学年 1~7 組

教科担当者: (1組: 島澤・郡山) (2・4組: 平田・郡山・島澤) (3・5組: 島澤・郡山・吉田) (6・7組: 吉田・島澤・平田)

使用教科書: (「APPLAUSE English Logic and Expression Ⅱ」開隆堂)

教科 外国語(英語) の目標:

【知識及び技能】英語によるコミュニケーション及び表現活動を行うための基礎となる文法知識やスキルを育成する。

【思考力、判断力、表現力等】文法を使った表現活動を行うために必要な思考力・判断力・表現力を育成する。

【学びに向かう力、人間性等】異文化や外国語に対する興味関心を高め、国際社会に役立つ人間性を育む。

科目 論理・表現Ⅱ の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
4技能を活用した英語によるコミュニケーションを行うための基礎となる知識やスキルを育成する。	情報を整理し、目的や場面、状況に応じて、論理的に適切な英語で表現できる力を身に付ける。	様々な人とペアワークを行うことで、多様性への享受力を高めていくとともに、協働的に学びを進められる力を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 「や」	話 「発」					
1 学 期	Lesson 1、2、3 【知識及び技能】 取扱う文法項目について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の経験や考えを聞き手にわかりやすく伝えられるようにさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の経験や考えを聞き手に積極的に伝えようとする態度を育む。	・現在形・過去形を用いた表現 ・未来形を用いた表現 ・助動詞を用いた表現 上記の文法項目について、副教材「Scramble英文法」、「Scramble Basicトレーニング問題集」で演習する。	○	○	○	○	○	○	○	○	10
	定期考査		○	○							1
	Lesson 4、5 【知識及び技能】 取扱う文法項目について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の経験や考えを聞き手にわかりやすく伝えられるようにさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の経験や考えを聞き手に積極的に伝えようとする態度を育む。	・完了形を用いた表現 ・受動態を用いた表現 上記の文法項目について、副教材「Scramble英文法」、「Scramble Basicトレーニング問題集」で演習する。	○	○		○	○	○	○	○	14
定期考査		○	○							1	
2 学 期	Lesson 6、7、8 【知識及び技能】 取扱う文法項目について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の経験や考えを聞き手にわかりやすく伝えられるようにさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の経験や考えを聞き手に積極的に伝えようとする態度を育む。	・比較級・最上級を用いた表現 ・さまざまな比較の用法についての学習 ・動名詞を用いた表現 上記の文法項目について、副教材「Scramble英文法」、「Scramble Basicトレーニング問題集」で演習する。	○	○	○		○	○	○	○	13
	定期考査		○	○							1
	Lesson 9、10 【知識及び技能】 取扱う文法項目について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の経験や考えを聞き手にわかりやすく伝えられるようにさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の経験や考えを聞き手に積極的に伝えようとする態度を育む。	・to不定詞を用いた表現 ・さまざまなto不定詞を用いた表現 上記の文法項目について、副教材「Scramble英文法」、「Scramble Basicトレーニング問題集」で演習する。	○	○		○	○	○	○	○	14
定期考査		○	○							1	
3 学 期	Lesson 11、12、13、14 【知識及び技能】 取扱う文法項目について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の経験や考えを聞き手にわかりやすく伝えられるようにさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 自分の経験や考えを聞き手に積極的に伝えようとする態度を育む。	・関係代名詞を用いた表現 ・関係副詞を用いた表現 ・仮定法を用いた表現 ・無生物主語・強調構文を用いた表現 上記の文法項目について、副教材「Scramble英文法」、「Scramble Basicトレーニング問題集」で演習する。	○	○		○	○	○	○	○	14
	定期考査		○	○							1
合計											70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

家庭 科目 家庭基礎

教科： 家庭

科目： 家庭基礎

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： （ 倉本、穴戸 ）

使用教科書： （ ウェルビーイングにつなぐ家庭基礎 教育図書 ）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それに係る技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】生涯を見通して生活の中から問題を見出して課題を解決する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】様々な人々と協働し地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとする。

科目 家庭基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域の生活充実向上を図るために実践しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
生涯の生活設計 青年期の自立と家族・家庭 ライフステージごとの特徴・課題、人生設計に必要な要素を理解し、自分の将来とこれからの社会について考える。	・自分の将来をイメージする ・自立への一歩 ・家族・家庭とは ・将来の自分と家庭を想像する ・家族に関する法律 〔教材〕 プリント等	〔知識・技能〕 自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を通して生活課題に対し意思決定していくことの重要性について理解を深めている。 〔思考・判断・表現〕 ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活、自己の意思決定に基づき責任をもって行動することについて、課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察するなどして課題を解決する力を身に付けている。 〔主体的学習に取り組む態度〕 様々な人々と協働し、生涯の生活設計や青年期の課題について主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	5
衣生活と健康 ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、被服材料などについて理解し、健康で快適な衣生活に必要な知識と技能を習得する。	・衣服の役割 ・衣服の素材の種類と特徴 ・衣服の選択から管理まで ・今後の衣生活を考える ・被服製作実習（エプロン） 〔教材〕 プリント等	〔知識・技能〕 被服の機能と着装、被服材料、被服構成及び被服衛生を理解し、ライフステージや目的に応じた選択ができる。また、計画的な被服の購入と管理に必要な技能を身に付けている。 〔思考・判断・表現〕 被服の機能性や快適性について考察するとともに安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫できる。 〔主体的学習に取り組む態度〕 様々な人々と協働し、衣生活の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	10
1 学期 子どもの生活と保育 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援についての知識および乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を習得する。	・子どもの成長と発達 ・子どもの生活 ・子育て社会の課題 ・製作実習（絵本） 〔教材〕 プリント等	〔知識・技能〕 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援についての知識および乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 〔思考・判断・表現〕 子どもを生み育てることの意義について考えることができ、子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の課題を解決しようとする力を身に付けている。 〔主体的学習に取り組む態度〕 様々な人々と協働し、子供の健やかな成長のための課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	7
ホームプロジェクト 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。	・ホームプロジェクトとは ・ホームプロジェクトの計画と実践 〔教材〕 プリント等	〔知識・技能〕 ホームプロジェクトの活動意義と実施方法について理解している。 〔思考・判断・表現〕 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察するなどして課題を解決する力を身に付けている。 〔主体的学習に取り組む態度〕 様々な人々と協働し、生活上の課題などに主体的に取り組み、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。		○	○	1
定期考査			○	○		1

2 学 期	ホームプロジェクト 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につける。	・ホームプロジェクトの実践報告 〔教材〕 プリント等	〔知識・技能〕 ホームプロジェクトの活動意義と実施方法について理解している。 〔思考・判断・表現〕 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、課題を設定し、解決策を構想し、実践・考察するなどして課題を解決する力を身に付けている。 〔主体的学習に取り組む態度〕 様々な人々と協働し、生活上の課題などに主体的に取り組む、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○	○	2	
	食生活と健康 栄養の特徴や食品の栄養的特徴、食の安全、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な知識と技能を習得する。	・生活習慣と食事 ・栄養素と食品 ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理 ・調理実習 ・持続可能な食生活 〔教材〕 プリント等	〔知識・技能〕 ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、食品の調理上の特性、食品衛生をふまえて、自己や家族の食生活の計画・管理及び調理に必要な技能を身に付けている。 〔思考・判断・表現〕 自己や家族の食事を工夫できるとともに、食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活を営む力を身に付けている。 〔主体的学習に取り組む態度〕 様々な人々と協働し、食生活の課題などに主体的に取り組む、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○	○	○	10
	高齢期の生活と福祉 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護についての知識及び生活支援に関する基礎的な技能を習得する。	・高齢者とは ・高齢期の心身の変化 ・高齢化する日本を生きる 〔教材〕 プリント等	〔知識・技能〕 高齢期の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護についての知識及び生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 〔思考・判断・表現〕 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性についての課題を解決しようとする力を身に付けている。 〔主体的学習に取り組む態度〕 様々な人々と協働し、高齢者の課題などに主体的に取り組む、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○	○	○	4
	共生社会と福祉 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援についての知識を習得する。	・共生社会とは ・ともに支え合う社会とは 〔教材〕 プリント等	〔知識・技能〕 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 〔思考・判断・表現〕 家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支えあって生活することの重要性を認識し、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察できる。 〔主体的学習に取り組む態度〕 様々な人々と協働し、共生社会の課題などに主体的に取り組む、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○	○	○	2
	住生活と環境 ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な知識と技能を習得する。	・人間と住まい ・快適・安全に暮らす ・住まいを計画する（実習含む） ・持続可能な住まい 〔教材〕 プリント等	〔知識・技能〕 ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解し、適切な住居の計画・管理に必要な知識や技能を身に付けている。 〔思考・判断・表現〕 防災などの安全や環境に配慮した住生活や住環境を工夫できる。 〔主体的学習に取り組む態度〕 様々な人々と協働し、住生活の課題などに主体的に取り組む、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○	○	○	7
定期考査					○	○		1	

3 学 期	食生活と健康 栄養の特徴や食品の栄養的特徴、食の安全、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な知識と技能を習得する。	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と食事 栄養素と食品 食品の選び方と安全 食事の計画と調理 調理実習 持続可能な食生活 [教材] プリント等	[知識・技能] ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活、食品の調理上の特性、食品衛生をふまえ、自己や家族の食生活の計画・管理及び調理に必要な技能を身に付けている。 [思考・判断・表現] 自己や家族の食事を工夫できるとともに、食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活を営む力を身に付けている。 [主体的学習に取り組む態度] 様々な人々と協働し、食生活の課題などに主体的に取り組む、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	9
	消費生活と経済計画 消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組み、持続可能な消費について理解し、自立した消費者として行動できるようにする。家計の構造や生活における経済と社会の関わり、家計管理を理解し、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 契約の重要性 消費者問題と消費者を守るしくみ 暮らしと経済 将来のライフプランニング [教材] プリント等	[知識・技能] 家計の構造や生活における経済と社会の関わり、家計管理について理解している。 [思考・判断・表現] 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性を認識し、ライフステージや社会保障制度などに関連付けて考察できる。 [主体的学習に取り組む態度] 様々な人々と協働し、生活における経済の課題などに主体的に取り組む、自分や家族、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	6
	持続可能なライフスタイルと環境 私たちの暮らしが環境に影響を与えていることを意識し、身近なところから環境に配慮した生活を送る必要性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 暮らしと環境問題 持続可能な消費行動 [教材] プリント等	[知識・技能] 暮らしと環境問題のかかわりを理解している。 [思考・判断・表現] 持続可能な消費行動を理解し、消費者としての自覚のある行動を考察できる。 [主体的学習に取り組む態度] 様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1

合計
70

高等学校 令和8年度（2学年用） 教科

総合的な探究の時間 科目 総合的な探究の時間

教科： 総合的な探究の時間 科目： 総合的な探究の時間

単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1組：鎌田）（2組：南川）（3組：須賀）（4組：島澤）（5組：吉田）（6組：佐村）（7組：土田）

使用教科書：（東京都教育委員会「人間と社会」）

教科 総合的な探究の時間 の目標： 自分及び他者、そして社会を客観的に見つめ、分析し、判断・理解できる能力を育成する。

【知識及び技能】 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 自分で課題を立て、情報を集め、まとめ・表現することができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

科目 総合的な探究の時間 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題にかかわる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。□ □	自身の進路に関する学問の問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、お互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
自身の進路に関連した学問の探究活動を行うため、自分の興味・関心のある学問を探る。 【知識及び技能】 ・自身の進路に関連した学問、知識と理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身の進路に関連した学問に関する情報を収集するとともに、自己の関心や適性を分析し、まとめ・表現させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・探究テーマについて主体的に考え発表するとともに、他者の発表を聞き、協働的な学びを行う態度を養う。	・自身の興味のある学問分野は何か？（探求辞典・分野別説明会） ・探究テーマ設定のための自主活動（マンダラート等）	【知識及び技能】 ・自身の興味のある学問分野について、知識と理解を深められている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身の興味のある学問分野について情報を収集するとともに、自己の関心や適性を分析し、まとめ・表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 ・探究テーマについて主体的に考え発表するとともに、他者の発表を聞き、協働的な学びを行う態度を身に付けている。	○	○	○	12
自身の興味のある学問分野に関連した探究活動を行い、発表する。 【知識及び技能】 ・自身の興味のある学問分野について探究し、設定したテーマについて知識や理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身の興味のある学問分野に関連した問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析してまとめ・表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自身の興味のある学問分野に関連する探究に主体的・協働的に取り組むとともに、新たな価値を創造し、	・探究活動&プレゼン作成 ・探究クラス内発表 →クラスごとにグループずつ探究成果をプレゼンする。	【知識及び技能】 ・自身の興味のある学問分野について探究し、設定したテーマについて知識や理解を深められている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身の興味のある学問分野に関連した問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自身の興味のある学問分野に関連する探究に主体的・協働的に取り組むとともに、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。	○	○	○	13
自身の興味のある学問分野に関連した探究活動を行い、発表する。 【知識及び技能】 ・自身の興味のある学問分野について探究し、設定したテーマについて知識や理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身の興味のある学問分野に関連した問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自身の興味のある学問分野に関連する探究に主体的・協働的に取り組むとともに、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。	・代表者発表を通じ、その他生徒も探究した内容の振り返りと改善を行う。	【知識及び技能】 ・自身の興味のある学問分野について探究し、設定したテーマについて知識や理解を深められている。 【思考力、判断力、表現力等】 ・自身の興味のある学問分野に関連した問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自身の興味のある学問分野に関連する探究に主体的・協働的に取り組むとともに、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。	○	○	○	10
合計						
合計						35